



Hosei University

・2016年度・

学生が選ぶ  
ベストティーチャー賞

実施報告



法政大学  
教育開発支援機構

2016年度 法政大学  
**学生を選ぶベストティーチャー賞**

# Good, Better, Best

「よい野球選手」とは、チームの勝利によく貢献するプレーヤーのことでしょう。  
 「よいシェフ」とは、おいしい料理をリーズナブルな値段で提供してくれる料理人のことかもしれません。  
 「よい〇〇」と聞かれたら、それなりにもっともらしい答えを出すことはできそうです。  
 でも、「どちらがより Better な選手か」とか「どちらのシェフの料理がより Better か」となると、  
 意見が分かれてくるでしょう。比較の基準がいろいろあるからです。  
 これが「Best は誰か」となると、答なんか出せそうもありません。  
 それなのに、「Best な先生は誰か」を見つけようと言う、  
 そもそも無理な企画が Best Teacher 賞です。

でも、無理を承知でやるところが面白いとも言えます。  
 「私にとってはこの先生が Best」といういろいろな意見を出し合うことで、  
 先生たちを見る目も変わってくるかもしれません。  
 「少数派かもしれないけれど、でもやっぱり私の Best Teacher はこの人」という意見も、どしどしお寄せください。



教育開発支援機構長 文学部教授 **中釜 浩一**

## あなたにとっての一番良い先生は誰ですか？

法政大学「学生を選ぶベストティーチャー賞」は学生の学生による学生・教員のための「理想的な授業をしている先生を選んで表彰する」という目的で、2014年度より実施しています。「学生を選ぶベストティーチャー賞」実行委員会（教育開発支援機構長、FD推進センター長、代表学部長、学生FDスタッフ担当教員、そして学生FDスタッフで構成）により企画・実施が行われています。

2016年度は、10月24日（月）～11月18日（金）、「～『タメになった!』と思えたあの授業、あの先生～」をテーマに、3キャンパスで実施しました。実行委員会の学生FDスタッフが中心となって広報活動を行った結果、1,000票を超える投票が集まり、特別賞を含め、12名の先生が選出されました。

また、新たな試みとして、学生が記入した投票理由の中から「ベストコメント賞」を12件選出しました。



## 選出結果

### 最高票数獲得賞

後藤 一美 (法学部)

### 学生を選ぶベストティーチャー賞

狩野 覚 (情報科学部)  
 川久保 俊 (デザイン工学部)  
 齋藤 範 (兼任講師)  
 塩崎 公靖 (兼任講師)

鈴木 美伸 (兼任講師)  
 徐 玄九 (兼任講師)  
 長原 豊 (経済学部)  
 湯浅 誠 (現代福祉学部)

### 特別賞

倉部 真由美 (法学部)  
 佐野 哲 (経営学部)  
 柴田 東作 (理工学部)  
 (五十音順 敬称略)

## 受賞教員紹介

2016年度  
**学生を選ぶ  
 ベストティーチャー賞  
 最高票数獲得賞  
 特別賞**

法学部教授 **後藤 一美**

●主な担当科目 【学部】国際協力論、国際協力講座、グローバル・ガバナンス、演習（国際開発協力論）、International Development Cooperation 【大学院】国際協力政策研究、JICA 寄付講座  
 ●専門分野・研究テーマ 開発援助政策論、国際協力論、グローバル・ガバナンスに関する政策研究



### 受賞の感想

光陰矢のごとし。  
 振り返れば、「海外経済協力基金 30 年」（国際協力の実務）と「法政大学教授 18 年」（国際協力の教職）の通算 48 年間、「国際協力」という天職を全うすることが出来ました。とりわけ、最後の三年間では、「学生が選ぶベスト・ティーチャー賞」三年連続受賞という前人未踏の快挙が、退職に華を添えてくれました。じつに嬉しい限りです。

講義「国際協力論」の最終回では、名付けて「夢飛行機」というお遊戯もどきを試みたところ、以下、紹介してみましよう。キャッチコピーとしては、「（国際協力をとおして実現してみたい）あなたの夢を紙飛行機に書いて、世界に向かって飛ばしてみよう」というものです。

まず、学生たちは、(YouTube を観ながら) 各自折った紙飛行機の「右側の翼」に「自分の夢」を書いて、筆者のかけ声で一緒に飛ばします。つぎに、学生たちは、自分の傍に落ちてきた紙飛行機の「左側の翼」に再び「自分の夢」を書いて、先ほどと同じ要領で飛ばします。最後に、学生たちは、再び自分の傍に落ちてきた

紙飛行機を拾い上げ、今度は「両翼の夢」を紹介しながら、「自分の夢」を1分以内で語ります。この夢をマイク片手に筆者がフォローするというものです。

上記一連の過程において、受講生数百名もの夢が、一斉に投げられた紙飛行機とともに、二度にわたって、外濠校舎薩埵ホールという大空間で舞う光景を想像してみてください。じつに壮観でした。書かれた夢の内容とコメントをとおして、こうした「夢飛行機」をやってみた学生自身も非常に楽しんでいただけたことがわかります。

また、ある受講生の期末レポートには、つぎのような受講所感が記されていました。「(原文のまま) 最後の講義にて、私の夢が紙飛行機に乗って飛んで行きました。そしてそれが皆さんの前で紹介されました。今までふわっとした考えで持っていた夢でしたが、紙飛行機に書いて実際に他人に読まれたことで、それが本当に自分の夢だと自覚しました。ターニング・ポイントになった気がします。ありがとうございました。」

さらに、この授業を受講した4名の学生から、最近、文部科学省主催「トビタテ! 留学 JAPAN」の「日本代表プログラム: 新興国コース」に合格したとの嬉しいニュースも届けられています。

このように、最終回の「夢飛行機」という手法は、18年間にわたる授業をとおして伝えたいエッセンスを集約すると同時に、学生の授業参加型スタイルをじつに象徴したものだったように思われます。退職後の筆者の夢は、「夢追い人」としての卒業生が、日

本国内のみに留まらず、世界各地で夢追う姿を夢見ることです。夢追うものは夢をもつかむ!

法政サヨナラ、HOSEI ありがとう!

### 授業に心がけていること/工夫

講義「国際協力論」では、大教室・大人数の授業にも拘わらず、下記の工夫を積み重ねながら、今日に至っています。

- (1) 教授による一方的講義スタイルではなく、学生とのインタラクティブな授業展開が最大の特徴。
- (2) 教師は教壇に立たず、マイクを持って教室を歩き回り、マイクを学生に渡して発言を促すスタイルを展開。
- (3) 学生発言に先立ち、かならず所属・学年・氏名を述べるのがルール。
- (4) 口頭プレゼンでは、「一分以内で三点にまとめる」のがルール。
- (5) グループ・ディスカッションやディベート(英語を含む)も随時展開。
- (6) 学生の実利(英語力向上、MOOC、TED、海外留学等)に資する情報提供。
- (7) 春学期は、動画活用による授業テーマ「国際協力」への学生の関心を高める工夫。
- (8) 秋学期当初、春学期末レポートの中から成績優秀レポートを適宜抽出し、PPTによる学生プレゼンテーションと指導(学生および教員双方からのコメントを含む)。
- (9) 秋学期には、ゲストスピーカーによるオムニバス形式の講義(テーマ「職業としての国際協力」)を編成。
- (10) 遊び心のある授業展開(例: 春学期初回「歌とダンス: フォーチュンクッキー」で「トビタテ! 留学 JAPAN」の紹介& 秋学期最終回「夢飛行機」)。



2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



情報科学部教授  
狩野 寛

- 主な担当科目：数学（微積分学、フーリエ解析、ラプラス変換、ベクトル解析など）、物理（力学、電磁気、振動波動、熱・エントロピー）
- 専門分野・研究テーマ：物理学（非線形光学、非線形レーザー分光、原子・分子物理）

### 受賞の感想

抽象度が高くすぐに役立つ保証がない授業なのに宿題は多い…それなのに受講者のみなさんが高い評価をくださったので、たいへん嬉しく、たのもしく感じました。みなさんといっしょに、これからも頑張ります。

### 授業に心がけていること／工夫

数式の意味・内容を伝えるための文章を板書し、アニメーションを使うこともあります。数式の応用をいろいろ分野の具体例で説明します。関連資料をWebページで公開し自習できるようにしています。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



デザイン工学部専任講師  
川久保 俊

- 主な担当科目：数学2、物理2、建築生理心理1・2、音・振動環境
- 専門分野・研究テーマ：建築環境工学、都市環境工学

### 受賞の感想

授業の内容、難度、進行速度等々、見直すべき点は多くありますが、今回の受賞を励みに、気を引き締めて一層精進したいと思います。

### 授業に心がけていること／工夫

講義中に学ぶ内容が我々の生活のどのような部分に役立てられているか、具体例を示しながら紹介するようにしています。また、授業改善アンケートの内容は毎年目を通して翌年の授業の内容改善に活かすようにしています。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



兼任講師  
鈴木 美伸

- 主な担当科目：キャリアデザイン入門、キャリアデザイン演習、就業基礎力養成1・2、就業応用力養成1・2
- 専門分野・研究テーマ：大学キャリア教育、ビデオ教材開発による産学連携・連続人材育成。人口減少化における大学と企業の経営戦略。実践知教育。

### 受賞の感想

2回目の受賞で驚きましたが、期待と責任を感じます。学生にとって苦勞の多い授業にも拘わらず、楽しんでくれたのでしょうか。法政らしい「実践知教育」とは何か？を学生と一緒に考えたのはとても有意義でした。

### 授業に心がけていること／工夫

大学授業は社会で通用することを教えています。低学年では体を使って学び取る力を、高学年では論理的に発信する力を育成します。全学部対象なので異分野の学生が討議を通じて知見を共有できる「出会い系」授業です。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



兼任講師  
徐 玄九

- 主な担当科目：社会学Ⅰ・Ⅱ、社会思想Ⅰ・Ⅱ
- 専門分野・研究テーマ：政治社会学、社会思想とくに東アジアにおける市民社会および政治文化の特質

### 受賞の感想

「有得な〜い!」。「学生が選ぶベスト・ティーチャー賞」が贈られると聞いた私の「叫び」でした。私は本当に「マヌケ」なのに。でも思いがけない、思いもよらない「幸せ」をもたらしてくれた「我が母校」の後輩たちに「有難う!」。

### 授業に心がけていること／工夫

社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を鍛えること、この教養教育の基本に忠実な「学び合い」を心がけています。また、短い映像資料を多数用いて、一義的な二者択一的な答えではなく、考えるための余韻を残す工夫をしています。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



兼任講師  
齋藤 範

- 主な担当科目：哲学 A/B、倫理学 A/B
- 専門分野・研究テーマ：哲学、倫理学、生命倫理学、障害学

### 受賞の感想

このような賞をいただき、とても驚きましたが、たいへんうれしく光栄です。ありがとうございます。今後もさらによい授業ができるよう努めて参ります。

### 授業に心がけていること／工夫

受講生一人一人に語りかける心づもりで、わかりやすくめりはりを利かせて講義すること。授業ごとの脈絡や他の学科との関連にも触れ、受講生の関心を縦横に広げながら、そのつど問いを投げかけて、受講生が自ら考える契機となるよう講義すること。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



兼任講師  
塩崎 公靖

- 主な担当科目：スペイン語、スペイン語の世界
- 専門分野・研究テーマ：スペイン・バスク地方の文化・歴史、国際文化学

### 受賞の感想

2015年度に続き、2年連続で受賞させていただくこととなり驚いています…が、受講した学生の皆さんからの声がかような結果に表れたと考えると非常に嬉しい限りです。今後もこの賞に恥じない授業づくりをしていきたいと思ひます。

### 授業に心がけていること／工夫

語学と文化に関する授業を担当していますが、「言葉や文化の出会いかた」に重きを置きながら、授業を行っています。視点を変えたり、少し考えたりすればわかることでも、接し方がよくなければ「理解しがたいもの」になってしまうため、こうした新たなテーマに出会うことを楽しんでもらい、気づきを得てもらえる、そんな授業づくりを心がけています。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



経済学部教授  
長原 豊

- 主な担当科目：(1)経済史 (2)日本経済史 (3)社会思想
- 専門分野・研究テーマ：(1)経済史および経済学の方法論 (2)経済理論

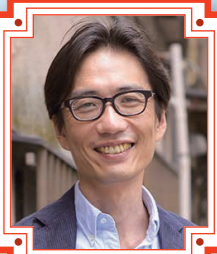
### 受賞の感想

ちょっと驚きましたが、学生の皆さんからの支持ということもあり、素直に喜びました。

### 授業に心がけていること／工夫

学生として必要不可欠な「知識」を確実に伝えるという原則的なことです。またそのための「工夫」は、伝えるべき内容をギリギリまで絞り込み、それを反復することですが、その際、どんなに受講生が多くても、ゼミのように、ぼくと受講生との「距離一間合い」を最小にすることを心がけています。またそれは、その気になれば(!)、可能です。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー



現代福祉学部特任  
任期付教授  
湯浅 誠

- 主な担当科目：社会問題論
- 専門分野・研究テーマ：貧困、社会的包摂、民主主義

### 受賞の感想

うれしいです。いろいろ学ばせてもらった学生諸君に感謝します。これからも、みなさんから話を聞かせてもらって、考えや感覚をブラッシュアップしていきたいです。

### 授業に心がけていること／工夫

「教える」と「学ぶ」は違うことを前提に、「教えない、学ぶサポートをする」授業を心がけてきました。大人数授業でも参加型で行っています。学生のみなさんの持ち帰れるものがあるべく多くなるよう、これからも工夫していきたいです。

## 2016年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」

の実施において、

「～『タメになった!』と思えたあの授業、

あの先生～」のテーマの下に、

4つの部門を設けたうえ、実施を行いました。

実行委員会では、

部門別の投票件数および投票理由に基づき、

特別賞の受賞者を選出しました。



2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー  
特別賞

経営学部教授  
佐野 哲

- 主な担当科目：経営社会学、経営学総論
- 専門分野・研究テーマ：経営社会学

### 受賞の感想

素直に嬉しく思います。「学生が選ぶ」なら、なおさらです。授業にエネルギーを注いでいく上で、今後の大きな励みになります。どうも有り難うございました。

### 授業に心がけていること/工夫

「企業のリアルをどう伝えるか?」をいつも考えています。教科書に書かれた経営学の建前に、現場の経営者が語る本音をぶつけて行く。それらの本音が理論的な枠組みを逸脱しないよう工夫するところがポイントです。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー  
特別賞

法学部教授  
倉部 真由美

- 主な担当科目：民事手続法入門、破産法Ⅰ・Ⅱ、民事再生法
- 専門分野・研究テーマ：再建型倒産手続における担保権者の処遇

### 受賞の感想

全く思いがけないことに大変驚きました。今年の大きな変化と言えば今年度から新規に開講した「民事手続法入門」を担当したことです。主としてこの科目の受講生が評価をしてくださったのかなと推測しています。このような賞をいただき、教員として大きな励みとなりました。ありがとうございます。

### 授業に心がけていること/工夫

民事訴訟手続や倒産手続は、学生の皆さんには身近なことと感じにくいと思いますので、具体例を挙げてイメージしながら聴いてもらえるように心がけています。「民事手続法入門」では、実際に私の父が経験した交通事故の相手方との民事訴訟事件を例に挙げながら解説しました。倒産手続は、私自身も身近な者も経験したことがありませんので、実際の倒産事例や弁護士の方々に向うエピソードなどを盛り込みながら、興味をもってもらえるようお話ししています。

2016年度  
学生が選ぶ  
ベストティーチャー  
特別賞

理工学部教授  
柴田 東作

- 主な担当科目：航法Ⅰ、航法Ⅱ、航空管制、応用航空管制航空機システム、航空無線
- 専門分野・研究テーマ：専門分野：航法 航空管制 研究テーマ：操縦中のパイロットの視線計測

### 受賞の感想

突然の受賞のご連絡を受け、大変驚きました。多くの先生方の中から、ベストティーチャーに選ばれたことを、大変光栄に感じております。

### 授業に心がけていること/工夫

担当している科目では画像、写真、グラフなどを多用するため、テキストはPower Pointで作成したものを使用しています。学生には、このPower Pointを「ノート印刷」したものを配布して、復習などに使えるようにしています。

## 選出理由 (抜粋)

- 学習、特に語学学習に対するモチベーションを高めてくれる。「英語学習は形から入れ」という他に類を見ない教えの元、今までは三日坊主であった私も年間を通して語学学習を続けられ、最終的に英語検定準一級に合格することができた。
- 授業外での学生の自主的な学習の場も提供してくれた。
- みんなが分かりにくいと思う箇所の解説をしっかりといて、自身のページにも計算過程などをのせている。
- 様々な数式が実際にどのように使われているのかの説明も混ぜて講義してくれた。
- やる気を出させるのが上手い。割と簡単にのせられてしまう。面倒見がいい。即答力、頭のキレ、発想力はすごく尊敬している。
- 毎回のテーマにおいて、1人の人間として考えなければならない大切なことを教えてくださる。この授業を受けてから、医学、心理学、哲学といったような学問も学んでみたいと強く感じるようになった。話し方も非常に惹きつけられるものであるため、教員を目指す私にとってすべてが大変勉強になった。
- シンプルに理解できた。例えば、ある文法の例外について教科書では暗記するように書かれていました。しかし先生は、例外である理由を納得のいくように説明してくださいました。暗記ではなく理解したため、その文法は数ヶ月が経った今でも覚えている。
- 1つ1つの単元をゆっくり且つ、学生1人1人がわからない(わからなそうな)所を、フォローするような進め方を行っていた。また、語学そのものだけでなく、先生自身の留学経験を基にした外国の文化、語学に対する勉強の方法も授業で扱っていたため、話を聞くことが楽しみであった。
- 先生の授業で私の中での意識改革が行われたから。大学生活を漫然と過ごしていて、それをどうにか変えたいと思っていた時に授業を履修した。先生の授業では主にアカデミックスキルについて学ぶ。ゲスト講師も多く様々な考え方に触れながら、グループディスカッションや発表などがあり、主体的に動いていかなければ授業についていけなくなる。今後どのような大学生活を送るべきかを自ら考えることができるともよい授業だった。漠然と授業を受けるのではなく、主体的に動いていくことによって、授業の質は自分で変えることが出来るということを認識した授業だった。この授業をとってから、授業中に発言することをあまり恐れなくなった。
- とても静かで集中して受けられるが、学生がマイクを持って意見を話すことができる参加型の授業だった。先生が見せる動画や駄洒落が面白く、少しそれた話もとてもためになる話ばかりだった。まるで世界一受けたい授業という番組のゲストになった気分でした。1番有意義な授業であった。
- 普段は当たり前だと思ってあまり考えないようなことについて深く考えさせられ、内容の濃いレジュメと先生の身近なことを例に挙げた説明、また先生オリジナルの紙芝居があり、毎回いろんな発見があって楽しいから。
- 先生にしか出せない味のある授業が魅力的。学生1人を当てて答えさせるのは緊張しているが、二度と内容を忘れないと思う。「書かせる」授業は、内容があとで見返しても入ってくる。
- 毎回の授業でそれまでの内容を昇華させた授業をする。学生が授業の内容をまとめて話すため、学生目線のまとめが聞ける。
- 自らの興味分野であり、かつその内容が詳細な所まで踏み込んでいたと同時に、それを簡易にまとめられ、理解しやすい授業を展開している。
- 社会にあふれる何げない問題をペアワークで解決まで自分たちで考えるところがなかなかない授業であったため。
- 難しい科目で、理解することが困難であったが、説明がわかりやすく、学生の質問にも優しく答えてくれ、テストも勉強をしっかりすれば点数に結びつけることのできるテストだった。
- 3年生から受講可能な講義であるため、はじめは全く分からなかったが、先生が色々具体例をあげて解説して下さったので、今ではとても興味もてるようになった。
- 授業が分かりやすく、ディスカッションを通じてより理解を深めることも出来ます。リアペや宿題でも細かく評価して下さるところも、良いと思う。
- 学生との距離が近く、とても親しみやすい。授業が楽しくて分かりやすい。専門知識でむずかしいこともあるが、丁寧に教えてくれる。
- 授業が分かりやすいだけでなく、実践的かつ面白く、ためになるものばかりでとても身につけている実感がある。ありがたい。



※こちらの選出理由は基本的に投票された学生のコメントをそのまま掲載していますが、一部修正を加えています。

# 活動の様子と表彰式・授賞式

学生FDスタッフ  
担当教員からの  
メッセージ



教育開発支援機構 FD推進センター  
FD推進プロジェクト・リーダー、学生FDスタッフ担当教員  
理工学部教授 川上 忠重

「学生が選ぶベストティーチャー賞」が今年度も開催されました。2014年度のトライアル開催から3回目の開催となります。今年度のテーマは、「**タメになった!**」と思えたあの授業、あの先生〜として、4部門(教養に関する知識が身についた、専門知識が身についた、語学力が身についた、その他)の観点から、特別賞を含めて12名の先生方が選出されました。投票理由も学生の皆さんの熱い「生の声」が反映された力作が数多くあり、今年度から新たに設けられた「ベストコメント賞」も、学生FDスタッフが中心となり選考してくれました。教員にとっても受賞された先生方の「授業の工夫」や「アイデア」は、実質的な教育の質向上に向けた情報の1つとして役立っています。

市ヶ谷、多摩、小金井キャンパスでの広報活動中も多くの学生や教員・職員の方々から、学生FDスタッフへの応援のメッセージが届けられ、少しずつではありますが、着実に「ベストティーチャー賞」が学生の皆さんの身近な「授業への意見の場」として、育ちつつあることを実感し、教員としても大変嬉しく思っています。

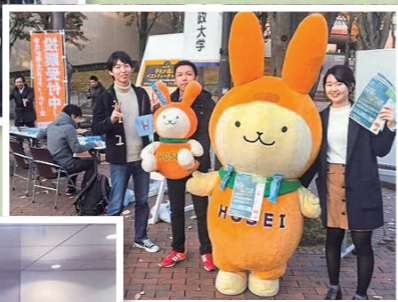
皆さんの「学生が選ぶベストティーチャー賞」への投票が、本学全体の「授業改善」の一助になることを心から願っています。今後も、ご協力・応募を、よろしく願っています!

2016年10月24日(月)～11月28日(金)、学生FDスタッフが3キャンパスで投票の呼びかけを行うなど、広報活動を展開しました。

## 3キャンパスでの実施の様子



▲ 市ヶ谷キャンパス



▲ 多摩キャンパス



▲ 小金井キャンパス



11月26日(土)に選考が行われ、12月24日(土)に表彰式・祝賀会が開催されました。

## 表彰式・祝賀会



▲ 受賞感想を述べる後藤教授



▲ 祝辞を送る学生スタッフ



## 学生FDスタッフ紹介

斉藤 茜  
経営学部経営学科 4年



企画、運営など何もかも手探りの状態で始めたベストティーチャー賞でしたが今年で3回目になりました。毎年何かしらの変化を加え、今年度は新たな取り組みとしてベストコメント賞を設けました。私は卒業する為、最後の参加となりました。ベストティーチャー賞の運営に関わることで様々な立場の考え方や価値観を知り、自分自身の成長へと繋がりました。学生FDスタッフで経験したことをもとに社会に出てからも邁進していきたいと思えます。学生FDスタッフの皆様、教職員の方々、ありがとうございます。

深澤 郁乃  
文学部日本文学科 4年



大学に入って分かったことは、机の上で学ぶことだけが学習ではないということです。机上の「学び」とは違う「学び」を得たいと思ったのが、学生FD活動を始めるきっかけでした。今年度は学生スタッフも増え、今までとは違った立場でした。学生生活最後のBT賞でありながら、とても新鮮な気分でしたし、先輩たちの頼もしさに感動しました。FDスタッフ活動で得た経験を、今後の社会生活に生かしていきたいです。

大橋 浩平  
文学部地理学科 4年



自分が学生FDスタッフに入ろうと思ったきっかけは、たまたまスタッフ募集のチラシを見たことでした。そのチラシを見て、活動内容が面白く、自分も大学に貢献したいという思いがあり、この学生FDスタッフに入りました。ベストティーチャー賞に携わったのは今年で3回目ですが、今年度も多くの学生が投票してくださり嬉しく思います。今後はこのイベントが、学生の大学生活をより充実したものになるようにしていきたいです。

小瀧 裕紀子  
経営学部市場経営学科 3年



私が学生FDスタッフに参加しようと思ったきっかけは、ある授業で大学の授業っておもしろいな、このような素晴らしい授業をもっと広めたいと思ったからです。一年間で最も印象深かったことはベストティーチャー賞に関する活動です。テーマ設定から始まり、表彰式まで携わることができ大変貴重な経験でした。投票されたコメント欄を読んでみると素晴らしい授業がたくさんあると改めて実感することができました。来年度はもっと学生FDスタッフとして貢献できるように積極的に活動していきたいです。

鄭 輝潤  
社会学部社会学科 3年



私が活動に参加したきっかけは、何か新しいことを始めたいと思ってた時に学生FDの存在を知り興味を持ったからです。今回、私は主に多摩と小金井キャンパスで広報活動をしました。BT賞は、学生の方に声をかけるのを躊躇してしまいましたが、学生の方は優しく、多くの投票数を得ることができました。今後は、学生の皆さんが自分に合った講義を見つけれられるように、学生FDスタッフとして少しでも協力していきたいです。

津田 奈央登  
理工学部機械工学科 2年



詳しい講義内容の発信や先生方へのインタビューを通して、学生が学びたい授業・興味のある分野の授業を見つけられるという活動は魅力的だと思ひ、学生FDスタッフに参加しました。BT賞は、学生の方に声をかけるのを躊躇してしまいましたが、学生の方は優しく、多くの投票数を得ることができました。今後は、学生の皆さんが自分に合った講義を見つけれられるように、学生FDスタッフとして少しでも協力していきたいです。

三橋 央嵩  
文学部地理学科 4年



元々教育分野に興味があったことと、2年生の時に親しい友人に誘われたことで学生FDスタッフに入りました。3度目のベストティーチャー賞でしたが、今年度は建物の建て替えによる導線の変更があり、活動の主旨を周知させることが難しく、最も広報活動に気合いが入った年になったと感じました。4年生ということで今年で最後になりましたが、振り返るとFDスタッフを通して得たものは多く、自分の中で続けてきてよかったと思える活動になりました。

山澤 良乃  
文学部哲学科 4年



一年生の時、ためになる授業に出会いました。そこから大学生活が面白くなる授業はないか考え、学生FDスタッフの存在を知りました。私たちの意見が反映され、授業をよりよくしていく活動が出来ます。ベストティーチャー賞では他キャンパスの学生達と交流することも出来、楽しかったです。オープンキャンパスでは高校生や保護者の方にシラバスや授業を説明しました。興味を持ったと言っていた時はやりがいを感じました。

平城 葉子  
法学部法律学科 3年



多くの授業、先生を知ってほしいという思いで学生スタッフとして活動しています。学生が選ぶベストティーチャー賞は授業選びの参考の一つになると思います。知り合いからの情報だけではなく、先生の「良さ」を知る機会になると思うので活用してもらえたら嬉しいです。昨年から学生FDスタッフを始め、来年度で3年目となります。今までの経験を活かし、より良いベストティーチャー賞を運営できるよう頑張りたいです。

寒河井 文子  
キャリアデザイン部キャリアデザイン学科 4年



法政大学では、講義そして大学生活をより良いものにするため、様々な活動が実施されています。私は2年次にラーニングステーションのスタッフとして活動していたことがあり、その時一緒に活動していた友人を通じてFD活動について知りました。本年度も「学生が選ぶベストティーチャー賞」が実施され、私も微力ながら広報のお手伝いをさせて頂きました。このような活動により教職員と学生が交流を深め、大学という組織の一員として各々が自覚と責任を持つことのきっかけになればと考えます。

安河内 幸佳  
文学部日本文学科 1年



学生FDを初めたきっかけは大学に入って何か新しい、さらに法政が好きになれるようなことをやってみようと思ったからです。BT賞はチラシ配りや受付が大変でした。今年は市ヶ谷キャンパスしか私はやらなかったのですが来年は他のキャンパスにも行ってみたいです。先輩や他大生とも交流できて、やって良かったなあと感じています。

大堂 由貴  
文学部日本文学科 1年



サークル活動など、何か活動がしたかったのですが、なかなか良いものが見つからない時にふと貼り紙でFD活動を知りました。各学部の個性的な先生方が様々なやり方で学生を惹き付ける授業を行っていたことに気づきました。BT賞では、先生の努力や心がけなど、普段の授業では知ることの出来ないことも知る機会となり、良い経験となりました。今後の活動として、FD活動の知名度があまり高くないように思えるので知名度upも兼ねて様々な活動をしたいです。

2016年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」で活躍したこちらの学生FDスタッフのほかに、協力してくださった学生がいました。この場を借りまして心よりお礼申し上げます。

# ベストコメント賞 発表



2016年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」に、  
たくさんの投票ありがとうございました。  
いただいた投票の中から、12件の投票理由を  
「ベストコメント賞」として選出致しました。



間違いなく  
私にとって大学生活で  
最高の授業です！

## Best Comment

授業は静寂の中で淡々と進められ、先生の発音は明瞭でとても聴き取りやすいです。学生の理解を第一に丁寧に授業が進められ、凛とした授業の中にも温かな優しさがあります。先生の衣装はシンプルですが、女性としての奥ゆかしさと、教員としての威厳が感じられます。授業の最初と最後に、学生に対するきちんとした挨拶があり、先生の謙虚な人柄が表れています。



## Best Comment

哲学の授業で、基礎科目なのですが、哲学者とかを扱う堅苦しいものではなく、善とは何か？心は存在するのか？などといった、答えの出ないような題材を、先生チョイスの映画を見ながら、考えていく授業です。思わずSNSに投稿したくなるような、心に響く、先生の名言が多いのが面白く、先生のキャラクターもとても魅力的です。



## Best Comment

まちづくりに興味が無かった。どの教授も同じことばかりで去年1年間でお腹がいっぱいだった。だけど、先生は違った。新しい住まいについての提案は自分の関心エリアの外にあったため強烈に面白く、受講生のほとんどを新築一戸建派から賃貸派&改築派に180度変えた！先生は誤解されやすく万人受けしないかもしれない(本人も自覚している)けど私は大好きです！！



## Best Comment

「英語は、簡単な言葉、自分の知っている言葉でシンプルに表現すればいいのよ。」と先生はおっしゃいます。「決して翻訳機など必要ないわ。」とも。私が席を置くのはTOEFL®スコア350のクラスです。毎回の授業冒頭に、春学期200語以上、秋学期は400語以上でスピーチを求められています。初めは苦痛以外の何物でもなかったのですが、今では、とにかく発表することを目標に自ら積極的に取り組んでいます。先生の魔法の言葉「英語はシンプルだからこそ世界で使われているのよ。」この言葉に背中を押され、次回実施されるTOEFL®に挑戦するべく奮闘中です。語学力のみならず英語に対する考え方を示唆くださった先生こそ「私にとって最高の先生」です。Simple is best.



## Best Comment

①この先生の授業形態や学生への対応(治安管理やモチベーション向上)それ自体が経営学を体現しているため。②熱血でもなく冷たくもない。教授の立場を踏まえながら客観的かつ身になる指示や指導してくれるから。“法大生”の深層心理をよくわかっている。



さらに英語が好きになりました！

## Best Comment

英会話が身につくと同時に演劇に関する知識やまたその英単語、演技方まで細かくレクチャーしてもらいとても楽しく英語の授業を受けることができました。また、少人数のクラスで2人ほどの小劇をすることによって同じクラスの人と学年関係なくたくさん話すことが出来て毎週水曜がとても楽しみになりました。ただただ英語を訳すだけでなく、台本から、役者の気持ちを考えて訳したり、発音の仕方を変えてみたり…いつもとは少し違う英語を学ぶことにより、さらに英語が好きになりました。



## Best Comment

日常のメディア(映画)やニュースから、その裏にあるアメリカの社会との現実を見出していくことで、私たちに分かりやすく授業をしてくださっている点に感銘を受けております。また、先生の教えにより、物事を繋げて考える、常識を常識だと思わずにまずは疑う、といったことを身につけることができました。全ての生徒の良い部分を必ず褒めた上で、そこからさらに生徒一人一人の良さをもっと引き出せるように助言をしてくださるところに、先生の優しさと思いやりをひしひしと感じています。大学生活で、このような先生に出会えたことを誇りに思っています。



## Best Comment

教養を学ぶことの意義は、多様な視点を持つことを可能にすることにある、と思っています。先生の倫理学の授業は、ただただ知識の習得を目指したものとは、一線を画すると思います。具体的には、毎回リアクションペーパーを集め、次の授業の際には、主なりリアクションペーパーを必ずフィードバックしてくださります。このことにより、自分は、前回受けた授業に対して、他の人がどのような視点から、どのように捉えたのかを知ることができ、自分に無い部分を自覚することが出来るようになります。(自分と同じ考えだが、この部分が違う。あるいは、この視点は、自分には全く無かった。等)また、先生がコメントを返すことにより、更に、付加価値が生まれていると感じています。正直、自分のリアクションペーパーが紹介され、先生からコメントをもらえるとうれしいです。それにより、更に、授業を真面目に受けようと思うようになりました。(例えば、どんな視点から捉えられるのか、疑問点はないか、等)以上により、教養の目的を最も果たしていると考えますので、先生を推薦させていただきます。



## Best Comment

先生はとても面白い先生です。授業も楽しくて、夏休み前の学生が答える授業アンケートで得意げに、スクリーンにQRコードを写して、これいい案だと思うんだよなあっていっていた姿に惚れました。高校時代はこれでもスポーツ万能で痩せてたんだよ…みたいなことを言って、走ってプリント取りに行ってた姿がかっこよかったです。毎授業、紙をくばっていて、マイクの音量、教室の温度とかいろいろ生徒を気遣ったり、わからないところが書いてあるときには、次の授業の冒頭で説明したりすごく優しくして良い先生です。もしかしら専門知識じゃなくて、その他への愛を語っているかもしれません。考えたらもっと良いところはありますがこら辺にしておきます。



## Best Comment

教室内を歩き回り、学生にマイクを渡して「3点セット」でコメントを求める授業スタイルが良かったです。大勢の前で自分の意見を述べる機会は普段なく、初めこそ緊張してうまく喋ることができずでしたが、段々と自信がついて、春学期が終わる頃には、「自分にマイクが回ってこないかな」と思うほどになりました。授業の内容自体は、映像資料を中心としたもので、内容に関するディベートや、問題解決のためのディスカッションなど、大教室にもかかわらず行われるダイナミックなアクティブラーニングは、主体的に考える思考力と、私の国際協力への興味を引き出しました。そして、この授業のキャッチコピーでもある「夢追うものは夢をもつかむ」が、かっこいい！遊び呆けていたら何も残らずに終わってしまうであろう大学生活に、痺れるようなキャッチコピーと夢を叶える「方法論」を差し出してくれるこの授業は、間違いなく私にとって大学生活で最高の授業です！



この授業をとってから、  
授業中に発言することを  
あまり恐れなくなりました！



## Best Comment

先生の授業で私の中での意識改革が行われたから。大学生活を漫然と過ごしていて、それをどうにか変えたいと思っていた時に授業を履修した。先生の授業では主にアカデミックスキルについて学ぶ。ゲスト講師も多く様々な考え方に触れながら、グループディスカッションや発表などがあり、主体的に動いていかなければ授業についていけなくなる。今後どのような大学生活を送るべきかを自ら考えることができるとてもよい授業だった。漠然と授業を受けるのではなく、主体的に動いていくことによって、授業の質は自分で変えることができるということを認識した授業だった。この授業をとってから、授業中に発言することをあまり恐れなくなった。



## Best Comment

建築環境工学(特に温熱環境)に関する基礎事項を練習問題を通じて理解することが出来た。厳しい授業だが、それだけ理解を深め、法政の建築学科を卒業したことの誇りを持ってほしいという優しさを感じる素晴らしさがあると気付いた。



今年度もみんなに  
会いに行きたいピョン!



2017年度も  
「学生が選ぶベストティーチャー賞」  
を実施します!

受けてよかった  
授業を  
ぜひ他の人に  
教えましょう!

あなたにとっての  
良い先生に  
ぜひ投票して  
ください!

私たちの  
「ベストティーチャー」  
を選出しましょう!

先生への感謝を  
投票に込めて!

学生企画・  
実行スタッフは  
随時募集して  
おります。

• 発行 •

法政大学教育開発支援機構FD推進センター

東京都千代田区富士見 2-17-1

E-mail: fd-jimu@hosei.ac.jp

TEL: 03-3264-9040